



# 農業の今、未来

～美しい田園風景を後世に～

本市の農業は、農業就業者の減少や高齢化が進展し、後継者がいないなど、担い手不足が深刻な問題となっており、このままでは耕作放棄地が増加して国土の保全や地域農業の維持が難しくなるおそれがあります。厳しい環境下にある農業を未来へつなぐために、今、新たな取組が進んでいます。

## 農業を取り巻く状況

長門市の農業就業人口の平均年齢は県平均と同じく、70歳を超えており、全国でも島根県に次いで高齢化率が高い状況です。兼業農家が多く、300万円以上の事業収入を得ている農業経営体は1割にも満たないなど、農業だけで生計を立てていくことが難しいことから、新たな就業者が育たないなど、厳しい状況です。

また、ほ場の面積が小さく、用水が不便であったり、不在地主が多いなど、利用する土地の問題もあることから、近年、耕作放棄地が増加しており、農地が守れない事態が生じています。

高齢化などにより、今後、農家は大幅に減少することが予想されており、担い手の確保・育成が急務となっています。また、農産物の販売価格の低迷や鳥獣被害の拡大などにより、生産者の生産意欲が減退しつつあり、担い手の経営安定を図るため、安定した需要の確保や生産基盤の拡充による生産力の強化が求められています。

## 長門市全体を

### 一つの農場に

「一市一農場構想の推進」  
このような状況に対し市では、平成25年5月に農業、水産業および観光産業を中心に統一的な成長の方向性を示す「ながと成長戦略指針」、同年9月に具体的な施策展開を示す「行動計画」を策定しました。

その中で、農業については、長門市全体を「一つの農場」として捉え、担い手に農地を集積するとともに、和牛飼育や野菜づくりなど経営の多角化を進めることにより、雇用創出や所得向上および安全、安心な農産物の供給拡大を目指す「一市一農場構想」を推進することとなりました。

特に農地の集積に関しては、平成26年4月に一市一農場推進室を日置支所内に設置し、「農地集積バンク」を展開しました。このバンクでは、農地の出し手と受け手を結びつけ、担い手への農地集積を推進しています。  
令和5年度の担い手への農地集積率を80%とする高い目標を設定し、現在、2人の農地集積

コーディネーターが、担い手となる集落営農法人や認定農業者の今後の経営意向を調査して、耕作できなくなった人の農地を担い手へ効率的に配分するお手伝いをしています。

末永敏彦コーディネーターは「市場も規模も小さい長門市で農業で生計を立てるのは厳しい。担い手のいない農地を公社や法人に集積することで、農業を維持することが必要。規模を拡大してスケールメリットを出すことで、明るい兆しが見えてくる」と農地集積のメリットを語っており、現在も一軒一軒の農家を回って、集積化に取り組んでいます。

### 農地の集積、法人化、担い手の確保・育成へ

「一市一農場構想」では、次のような取組を行っています。  
・農地・水系の現状分析  
・農地集積バンクの設立および農地中間管理機構事務受託  
・第3セクターによる長門市農業振興公社（仮称）の設立  
・モデル地区の形成と市内全域の展開  
・集落営農法人・認定農業者の

#### 拡大

- ・大規模経営体の確立に向けた地元合意の形成
- ・担い手（新規就農者）の確保・育成（公募）
- ・恒久的な鳥獣害対策

このうち、農地集積については、平成30年度末時点で担い手集積の実績が1,070ha（耕地可能面積2,502ha）、市全体の集積率は43%と着実に農地の集積が進んでいます。

また、担い手となる経営体については、この5年間で集落営農法人や農事組合法人の数が増加しており、三隅地区、油谷地区および俵山地区においては集落営農法人の連合体も設立され、地元合意のもと、大規模経営体としての取組が始まっています。

新規就農者数も、農業求人サイトや首都圏で開催される新規就農フェアや農業大学の就農ガイダンスなどでの情報発信に取り組んだ結果、2つの農事組合法人にそれぞれ1人が就業したほか、14人が9つの法人に就業するなど、新規就農者数が増加しています。

## 一般社団法人

### アグリながと

平成31年4月に発足

「一市一農場構想」では、第3セクターによる長門市農業振興公社（仮称）の設立を目指してきましたが、今年4月、市と深川養鶏農業協同組合、長門建設業協同組合の3者がそれぞれ出資し、「一般社団法人アグリながと」を設立しました。

アグリながとは、担い手不足の解消や優良農地の維持確保などを目的に、就農希望者などの研修および指導、農産物などの生産および販売の事業を主に営みます。

法人の事務所は一市一農場推



▲一市一農場推進室の看板を掲出（H26.4）



▲（一社）アグリながとを設立（H31.4）

進室内に構え、毎年研修生を募集し、営農事務を行いながら、農事組合法人への就業や自立を支援します。今年度の営農計画では、油谷久富地区において、約5haの農場で飼料用米、大豆、麦による2年3作の土地利用型の農業経営を行うこととしています。将来的には、複合化の取組として園芸作物の作付けなどを目指します。

農業者の減少や高齢化が進行する中、担い手不足の解消や優良農地の維持確保、新たな農産物の産地化を目指し、地域農業の最後の守り手として、また、今後の地域農業の発展の拠点として、精力的な取組が期待されています。



野中 惣太さん  
(一社) アグリながと 研修生

田を起こしたり、草刈りをして  
りしています。トラクターなど  
の機械を本格的に使用するの  
初めてですが、田ごとに調整と  
が必要ですし、使ってみなけれ  
ばわからないこともあるので、  
なるべく練習しないと。  
日頃の研修の中で難しいなど  
思うことは、専門的な農業用語  
などが出てくるときですね。よ  
く質問をしないといけないな  
と思います。やりがいを感じる部  
分は、放置された田を、一から  
教えてもらいながら開墾してい  
くのは、なかなかできない経験  
ですし、楽しいです。

**農業のおもしろい部分は？**  
野中さん…会社員は給料が固定  
されていますが、農業は自分で  
やった分は成果が出てお金も  
入ってくるので、そういう部分  
はおもしろいと感じます。あと  
は自分でできるということが強  
みですね。  
**今後の抱負は？**  
野中さん…一連の農作業を自分  
で考えて判断できてるかとい  
うと、まだまだです。2年目から  
は自分で判断して作業ができる  
ようになりたいです。  
アグリながとを卒業した際に

## (一社) アグリながとの 職員に聞きました

4月に設立された(一社)アグリながとの  
梶川節雄事務局長、吉野勝幸営農部長およ  
び野中惣太研修生に、現在、どのような活  
動を行っているか、インタビューしました。



▲(写真左から)梶川事務局長、野中研修生、吉野  
営農部長

**本市の農業は今、どんな状況で  
すか？**

梶川さん…全国的にも高齢化に  
伴う担い手不足が進んでおり、  
本市も同じく深刻な状況です。

これまでの個人農業では、限  
界があるということで、法人と  
して集団で運営しようと、現  
在、24の集落営農法人が活動し  
ていますが、ここでも若い人が  
いない。法人自体も高齢化して  
おり、担い手不足が懸念されて  
います。

**(一社)アグリながとでは、ど  
のような活動に取り組みま  
すか？**

梶川さん…法人単体で若い人を

育成させることは難しく、アグ  
リながとが担い手を募集し、育  
てる役割が望まれています。私  
たちの組織で2、3年研修した  
後、各法人へのあっせんや再就  
職、自立した農業に向けたサ  
ポートを目指しています。  
それと農業をするからには農  
地が必要ですが、担い手不足で  
困っている農地を、アグリなが  
とが活用することで、農地を守  
りたいと思っています。

また、営農するからには利益  
が上がりた方がいいですね。これ  
までは水稲単作の農業者が多  
かったわけですが、儲かる農業  
を目指すために大豆や麦など土  
地利用型の営農形態を取りなが

ら、少しでも農閑期をつくらな  
いようにして、農業所得向上を  
目指すロールモデルをつくりた  
いと思っています。  
将来的には園芸ものや畜産な  
ど戦略的作物に取り組んで、新  
たな産地化に結びつけたいと考  
えています。

**4月から研修生を受け入れてい  
ますが、どのような指導を行っ  
ていますか？**

吉野さん…若い人を指導できる  
ことをとても嬉しく思っていま  
す。私の指導方針はすぐに機械  
に慣れてもらおうと、初めてで  
あっても機械を使うような状況  
をつくり、指導します。田植え  
作業などで実際機械に乗らせ  
て、乗ってる状況を見ながら、  
気が付いたところを指導してい  
ます。研修生も若いので、のみ  
込みも早く、教えがいがありま  
す。

耕機作業でトラクターに乗っ  
てもらい、実際に荒起こしなど  
をやっていたら、ほ場によつ  
ては軟弱な土壌もあり、状況が  
それぞれ違うので、こういった  
時にはこうやるんだよと、状況  
にあわせた指導を行っていま



▲荒起こしや田植え作業など、研修の日々を送る野中さん

は、ここで学んだことを活か  
して、耕作放棄地の開墾などを  
行い、最終的には自分でも研修生  
を受け入れて、技術や知識を教  
え、地域の農業を守っていき  
たいと思います。

**これから農業を目指す若い人  
にメッセージをお願いします**

吉野さん…若い人が来ることは  
嬉しいことですし、農業に対し  
て興味がある人は、大事に育て  
ていきたいと思っています。まず  
は農業に対して自分の考えを  
しっかり持って、実現に向け頑  
張ってもらいたいと思います。

**アグリながとの今後の目標は？**



吉野 勝幸さん  
(一社) アグリながと 営農部長

**研修生に期待することは？**

す。いずれにしてもこの一年の  
うちにさまざまな体験ができる  
と思います。研修生も苦しくて  
大変なこともあると思います  
が、ぜひ耐えてもらいたい。  
荒れた農地など立地条件の悪  
い段階からスタートしますの  
で、研修生もやりがいがあるの  
ではないでしょうか。  
12年間、アグリサポーター大津  
の代表を務めてきましたが、ア  
グリながとからお声をかけてい  
ただき、自分でよいか悩みま  
しましたが、お世話になることに  
しました。研修生と一緒に目標を  
指導していきたいと思っています。

**今年の4月8日から研修生とし  
て活動する野中さんにお尋ね  
しますが、研修の日々はいかが  
ですか？**  
野中さん…放置された田が多い  
ので、ほ場整備やトラクターで

梶川さん…人がいない、農地が  
荒れる、園芸ものの産地がない、  
課題ばかりでいろいろ考えなけ  
ればならないのですが、まずは  
人をつくりたいと言っているのが大前  
提でアグリながとの取組を始め  
ました。こういった農業をや  
りたいという若い人の考えや農業  
に参入する企業などのノウハウ  
も参考に、守るべき農地を  
守り、地域農業の最後の守り手  
として、取組を継続していき  
たいと考えています。



▲指導員との二人三脚で農業を学んでいく

### 研修生を募集しています

(一社)アグリながとでは、研修生を募集しています。高  
齢化による担い手不足を解消し、地域農業を維持していくた  
め、農業に興味のある人財を募集します。

- 募集内容
- ・業務内容  
飼料用米、大豆、麦の2年3作による生産管理、園芸、  
作業受託ほか
- ・募集人員  
研修生1人(社会保険など福利厚生あり)
- ・雇用期間  
期間の定めなし(試用期間あり:3カ月)  
※(一社)アグリながとで2~3年、研修生として雇用し、  
その後は市内の農業法人などへの再就職、もしくは新規  
就農者として市内で就農することを目指していただきます
- ・応募資格
- ①年齢 18歳以上
- ②農業に対し強い意欲と情熱があり、長門市に定住する人
- ③普通自動車運転免許証(MT)
- ※詳しい勤務条件などは問い合わせください
- ・応募に関する問い合わせ  
日置上5915番地2(一社)アグリながと TEL:37-2113